誰かさん達。

姫林檎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
誰かさん達。

【Ｎコード】
Ｎ１５３１Ｄ

【作者名】
＊姫林檎＊

【あらすじ】
中学生の女の子が電車の中でうとうとする。その頭の中には誰かさん達が存在している。

（前書き）

この間電車に乗っている時に思いついた文章です。特に構成を練るわけでもなく、思いつくままに書いたので『なんて適当だ』と思ったらすみません。

いつからか、私の頭の中には『誰かさん達』が存在していた。
頭の中で誰かさん達は会議を開く。
私は電車に揺られていた。
のんびりと座り、ぼんやりと向こう側の席を眺めていた。
誰もいない席の向こうで流れる窓の外の景色を見ていた。
誰かさんが議題を発表する。
その直後誰かさん達が意見を言い合う。
あぁ、熱血だなぁと私はのんびり思った。
『このままでは駄目だ。多数決にしよう』と誰かさんが言った。
そして多数決が行われた。
それは明らかに少数派だった。
『次は・・・駅・・・次は・・・』
車内アナウンスが遠ざかる。
後、２駅で私の降りる駅。

多数派が私に文句を言う。

私はそれを無視することにした。

ゆっくりと目を閉じる。

車内アナウンスは聞こえなくなった。

・・・・・・・・・・・・・・

『・・・駅・・・』

アナウンスが聞こえた。

私は目をこする。

そこは私が降りる駅だった。

ふらふらと立ち上がると何かが私のひざにぶつかった。

そちらを見ると小さな女の子がじっと私を見上げていた。

私はにっこりと微笑むと電車を降りた。

振り向くとさっきの女の子が私が座っていた席に座ってうつらうつらとしていた。

あの席は魔の席ではないだろうか、と考えた後つい昨日別の車両で同じように寝てしまったことを思い出した。

さっきの女の子は小学生だろうな。可愛かったな。

なんて、自分だってほんの数ヶ月前は小学生だったくせに。

あの頃は中学生が大人に見えた。

決まった制服、きちんとした髪。

同じ人間だとわかっていながらも、別の生き物に見えていた。

今では同じ人間なのに友達も家族も先生も別の生き物に見えてるけど。

今では同じ人間なのに高校生が大人っぽく見えてるけど。

義務教育を終えて自分のことを自分で決めた人間。

どうせ自分が高校生になれば同じようなことを考えるんだろうけど。

小学生が子供に見える割に小学校生活はほんの少し前のことに思える。

実際ほんの数ヶ月前のことだし。

私は改札口を通った。

そのうち高校生になって、大学生か社会人になって、おばさんになって、おばあさんになって。

私は小学生の頃を中学生の頃をどう振り返るんだろう？

今の記憶は、美しい思い出になるんだろうか？

できるんだろうか？

そんなのはまだ　遠すぎてわからない。

（後書き）

自分的には描写？の練習になったような・・・
どうだったでしょうか？私がいくつかは別として、同じようなことを考える人がいるんじゃないですかねぇ。
是非ご意見お願いします。
現在『本の虫』を休止してます。すみません。
どうしても１１月ならではのネタが思いつかないんです。待ってる方はもうしばらくお待ちください。
これを越えれば１２月、１月とネタ祭りですし！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1531d/

誰かさん達。

2010年12月28日02時46分発行